

星和台

2019年2月

神戸市立星和台小学校

伝えること つなぐこと

「神戸の原点は震災からの復旧と復興です」（1月号より久元市長談）震災関連の随想が、12月号のルミナリエに始まり、1月号のボランティア元年、そして2月号と続きました。私は、震災体験から、その後の生き方と教育実践に大きな影響を受けていることを実感しています。

1月中は、校門と校長室の前に、立派な竹筒（竹花瓶）の中にパンジーと蛸梅を入れたオブジェを並べました。青々とした立派な竹や寒さに負けず咲いている花から、「命」のたくましさと美しさを感じます。風で倒れてしまうこともあったので、校舎内だけに飾ろうかと考えたのですが、外に並べ続けました。



竹は、81歳になる元先生から、パンジーは69歳になる元先生からいただきました。蛸梅は地域の方からです。竹や花に込められた真心をいただいたと思っています。その思いを伝えるシンボルとして、飾らせていただきました。

並べるときに、手伝ってくれる子供たちがいました。「自分たちが綺麗と思うように並べて」と頼むと喜んで並べてくれました。その様子を掲載したホームページを見た先輩から、「子供たちの手で飾ってくれていることがとても嬉しい。来年も贈らせていただきます。」と連絡が入りました。

星の子たちが大きくなったとき、「星和台小学校では、1月に竹に入った花が並んでいたな」思い出してくれることを願っています。 【校長 川崎 道夫】

学習支援ツール「みんなの学習クラブ」のアクセス率が神戸市小学校で一番高いことから（全児童の8割）、神戸市教育委員会と四日市市教育委員会の視察を受けました。特に、利用が多い6年生の活用の様子を見ていただき、子供同士が教えあっている姿に感銘を受けておられました。

また、休み時間にパソコン室の開放を実施しています。学習支援ツールだけではなく、プログラム学習等の教材も使って、教えあいながら楽しんでいます。



自学自習の学習態度を育てるために始めた学習支援ツールですが、ICT教育にも関連しています。家庭での協力ありがとうございます。



《防災教育》

阪神淡路大震災から23年が過ぎました。学校では、その教訓を受け継ぎ伝えていくために防災教育に取り組んでいます。17日（木）には「語り部による読み聞かせ会」、25日（金）の放送集会では「6年生による震災学習の発表」を行いました。日々の防災学習から防災意識を高めてほしいと願っています。



《卓上木琴寄贈式》

この度、ヤマト住建株式会社様より「子供たちの教育活動に役立てるように」とのお申し出があり、「四国銀行学びの応援債」より卓上木琴7台を寄贈して頂きました。

17日の寄贈式には、代表取締役社長 中川 泰様、を始め、四国銀行神戸支店支店長 須賀 昌彦様にもご来校頂き、6年生の代表2名が木琴を受け取りました。

「練習のときには木琴の数が足りなかったもので、画用紙に木琴の鍵盤の絵を描いて練習していた子もいたのですよ。」と、お話すると中川社長も須賀支店長もたいへん驚かれています。そして、「これからは、ぜひこの木琴を使って練習してくださいね。」と、温かい言葉をかけてくださいました。



中川社長(左から2人目)・須賀支店長(右端)



大切に使わせて頂きます。ありがとうございました。

《昔あそびをたのしもう》

1月29日（木）、シルバーカレッジ昔遊び研究会の方々が、1年生にたくさんの昔あそびを教えてくださいました。子供たちは、苦戦しながらも、お手玉、あやとり、けん玉、ぶんぶんごまなど、たくさんの昔あそびに挑戦しました。最後に、全員で飛ばした「紙トンボ（牛乳パックの紙とストローで作った竹とんぼ）」が高く上がると、会場のあちこちから大きな歓声が上がりました。

